

廿月六日、出三國之モハ新車、中央浦へ景巡覽不回意也。十
時入八重門寺へモハモニサセキ、此は御上院也。其後御上院

先ツ本土（警ニ四國、九州方面）ノ側面ヲ實加シ^{K-1}ヘ一旦「ウルシ」ニ即過シタ後陸續其國ヲ岸ツテ再北上シテ來ルモノト考ヘタ當時通電諭ニ依ツテ米軍ノ新上陸作戰行動力切退シテ居ルコトハ承知シテ居大方^{K-2}ノ作戰行動ニ時間的制限ガアルカラ一旦「ウルシ」ニ即投

力艦造船團ヲ併ハナイ KdDヲ攻撃シタ繩縛類何

5
軍令部ハ艦送船ヲ伴ヘナイ^dハ攻撃シナイ方針ヲ採ツテ居タガ^Aカス
ノ機ナ考ヘハ結局敵ノ攻撃ノ爲溫存主義ヲ完ウシ得ナイコトト朝鮮方
面ヘノ退避（基地ノ關係上）困難ナルコトヲ理由トシテ三月十七日強
硬ニ輸送船隨伴ノ有無ニ拘ラズ有利ト認メタルトキハ攻撃ヲ断行スベ
キデアルトノ意見具申ヲ實施シタ。軍令部^bハ^c^dノ強硬ナル意見具
申ニ勧誘シテ其ノ決定ヲ^b長官ノ判定ニ一任スル機ナ不適確ナ指揮ヲ
採ツタ 而モ此ノ指令方九州沖航空駆ノ直訓デアツタ爲^bノ機動艦隊
攻撃ノ準備ト應努力万全ニ行カナカツタ

元素測定ノ統要用手段訓練ヘ敵ノ Kdbヲ主目標トシテ行ハレ傳統的ニ

SAF 毛右ノ例ニ漏レズ Kdb 攻撃ノ熱意方強タ駆逐艦ニ對スル攻撃ヘ想
ニ考ヘラレタ傾向ガアル

九州沖航空戦々果ノ判断ニ就テ
5A G軍令部ノ觀察如何

卷之三

卷之三

（西漢）許慎著《說文解字》。此書收羅了漢代以前的古文字，是研究古文字的寶庫。

〔¹⁹〕
G.H.三月二十一日退院致
ニ向ヘル櫻花（神電）一カ敵機ニ喰ハレテ
了ツタコトヤ敵ノ無線ガ被害續發ノ間章狀態フ示シテ居ナイコト等
ト照會シ^{〔19〕}ノ戰果報告ニ疑念ヲ持ツテ居タ。其ノ戰果ハ概末四隻以

軍令部へ其ノ戰果ヲ更ニ内輪ニ判断シニ隻内外ト相定シテ居タ方皆無トヘ考ヘナカツタ

三月二十三日未ノ時kdbガ沖縄ヲ攻撃シタ時上陸ノ兩光ト糸嶼シナカツ
タ力

5AF カ「ウルシ」 腹投ノ途中腹筋
ノ如キハ莫大ナル損傷ヲ受ケタ
セノ発達度ヲシテ當ル體度ニ判断シテ居テ。則ニニチモ一旦「ウ
ルシ」

天燒航空作戦ノ初動ヲ失敗シタ原因考

原因次ノ體點ナリ
一月中旬檢討セラレタ如ク航空作戰準備方本格的ニ出來ルノハ五

○九州沖縄空襲ノ結果ヲ遡大ニ判断シ先入主觀ト相俟テ米軍ハ一旦
「ウルシー」ニ歸投シタ後、北上スルモノト誤判シタコトKDR

三月二十五日某軍が監視隊を珍島方面にて河口に上陸する目的的

米軍ノ進攻必至ト豫想シタ沖縄周邊ニ多數ノ飛行場ヲ建設シ却ナ米軍ノ利用ニ供シ我が地上作戦準備ヲ妨害スル結果ニナツチ居ル。既往ノ戰例ニ鑑ミ豫想魚雷ニ飛行基地ヲ造ルコトハ密かタイト云フ意見ハナカツタカ

天驕航空作戦ノ計画ニ於テハ陸海軍共ニ兩四路處ニ一一一〇〇機ノ
轟攻機ヲ展開スル計画ヲアツタガ敵ノ事例倣摸ヲ考慮スル時ヘ非實
際的ナ計画ニハナイカ

結果的二見ルト左様子アル

天號航空作戰計畫ノ根本趣旨ハ東支那海ニ進攻スル米軍輸送船團ヲ
海上ニ擊滅シソノ進攻企圖ヲ破壊スルニ在ツタ 然ルニ初動一輪進
船團ノ撃滅攻撃ニ完全ニ失敗シタ事實ハ取締隊ニ於テ天號航空作戰
計畫ハ初動ニ於テ崩壊シタト考ヘラレナイカ

敵ノ上陸部隊ヲ撃滅ノ爲本圖ニ上陸サセテ了ツタコトガ 32 A
後地上部隊本位ノ持久作戦ヲ固執せん有力ナル原因トヘナラナカ
ツタ力

天體作戦間航空攻撃目標ニ關スル主義ニ變化ガアツタ力
陸海軍中央協定テハ海軍ハ主トシテ Kdワ陸軍ハ主トシテ輸送船團ヲ
攻撃スル如ク協定セテレチ居ル

馬公集

海軍ハ右ニ基キ精銳部隊ヲ以テ ^a _b 擒取隊ヲ以テ艦船ヲ攻撃スルコト
トツ識定シテ居タ ^d

日本海軍軍令部
1942年6月1日
日本海軍軍令部
1942年6月1日

前後計算通りニナツタ

五月四、五日ニ亘ル32ノ攻撃失敗シ沖縄作戰ノ時期モ見エテ居ルト
思ハレル五月上、中旬ニ於テ天候ノ強行、速上陸ニ依ル沖縄奪回ヲ
企圖サレタ理由如何

天號航空作戦ノ強行フ堅持シタノヘ現地部隊ノ報告ヤ米軍ノ無電信報等ニ依リ天號ノ航空特攻ハ米艦船ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ得テ居ルト信ンジナ居タカラデアル。逆上陸ニ依ル沖縄等四ヘ軍令部次長大西源次郎中將力綴リ之ヲ主張シ關係者ニ其ノ率領ヲ督勵シタカラ已ムヲ得ズ行ツタモノテ作戦部長以下ソノ成功ヲ信ンジテ居ルモノハ無カツタ。唯敵力爾後硫黄大島ヤ種ヶ島ニ遂に作戦ヲ逆ノテ來タ時ニ使ヘルカモ知レナイト考ヘテ居タ程度デアル。

九州ノ川並造船ノ社長ノ意見異申フ容入レナ速上職用ノ小舟艇ヲ
造サセル外各種中、小舟艇ヲ蒐集スルコトガ初ノラレテ居タ
A 五月二十八日 F A G 長官ノ指揮カラ解カレテ居ル
右ハ鹽海双方ニ於テ沖縄作戰ニ見切リツケタカラカ

説教相撲振りニヤシタ

人

軍を皆國大々宣利ナ西民週日、源木一時、指揮ナリ、總務文庫ア開
GADヘ呼頭ニ付セヘ、GADニ勝テ敵本艦ヲ擊シテ、GAD軍主軍團ヲ破
イマ競争ニヤ居。

海軍ハ故ニ敵を降伏相撲ア見テ、要津通ヒ達セ、敵軍本艦ヲ破ア勝

成ハ駆逐ノミガ見切リツケタノカ

B又海軍ハ六月二十一、二日ノ朝水十號作戰ニ至ル迄天鵝作戰フ總
轄シテ居ルガ其ノ意圖ヘ一艦軍ハ五月二十六日ノ大艦指ニ依リ西
日本ヲ意點トスル本土作戰準備ヲ明示シテ居ル、ソレトノ關係如何

A T 自分ハ四月下旬頃カラ天鵝航空作戰ノ決戦ノ望ミハ既ニ無クナツタ
ト判斷シテ居タ但シ敵ノ艦船ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ又興ヘツツアル
コトハ情シテ居タ

五月二十四日該號空襲作戰ヲ實施シタ以後海軍ノ方ニ於テモ明確ニ
沖縄ニ於ケル決勝ノ望フ捨テテ居タ

從テ天鵝航空作戰ノ見透シニ就テハ僅海兩當局者ノ認識ハ一致シテ
居タト思フ GAD復踏セシメラレタノモ此ノ認識ノ下ニ行ハレタモノト思フ

海軍ニ於テモ五月一日及ビ四月一日 3A主力及 10F 5P 指揮力
ラ解イタノハ同様ノ見解ヲ示スモノデアル

5APヘ六月二十一、二日迄菊水作戰ヲ反覆シタノミナラズ終戰時迄沖
縄ニ對スル作戰ヲ繼續シテ居ル 但シ五月下旬以降ニ於テハ天鵝決
闘思想カラ敵ノ消耗ヲ企圖スル出血作戰ニ變化シテ居ル一實質的ニ
ヘ一尚 6F 7P G長官ノ指揮カラ解イタ有リナル理由ハ五月二十九日
聯合艦隊司令官小澤中將トナリ 6P 司令官ト同年ノ新古關係ア考
慮スル必要ガアツタカラテアロウ

天鵝作戰間陸軍ノ之ニ對スル熱意ニ就テ海軍側ノ所感如何

日本軍が飛行機ヲ出シ種ツタト云フ所感ヲ持ツタコトハ無イ 下ノ部
員相互ニハ若干ノ諭等ガアツタカモ知レヌガ當時陸海軍共ニ整備ガ
遅レテ居タノデ當初ノ出足ハ懸カツタガ何レモ最善ヲ極シタト感フ
GPAハ終始好ク駆ツタト思フ

現地観察ノ所感デA PヨリA Pノ方ガ無理フシニ協定通りニ特攻フ
出シタト思フ 海軍ナラバ天國ニ廻ハス程度ノモノA Pハ出難サセ
ナ居タ

GPAガ好クヤツタコトハ等シク認メル所アルガ航空機軍全般トシテ
ハA P10ヤA P14防空飛行師団迄投入スル指直フ珠ラナカツタ所ニ不滿ガ
アリ飛行機フ本土決戦ノ爲ニ整備シナ居ルトノ懸念ヲ持タサレタ
天候作戦間海軍報道部ガ沖縄フ最後ノ決戦カノ如キ印象ヲ與フル報
道振リタルノニ對シテ陸軍ノ方テ不滿ガアツタ様ニ斯イナ居ルガ
如何

天候ノ初期ニハソノ様ナ事實ハ無カツタ 中期以降即チ本土決戦事
務ニ眞剣ニナリ初メタ頃カラ若干ソノ様ナ諭等ガアツタ 然シ既海
軍ノ大キナ政治問題トナル迄ニハ至ツナ居ナカツタ
鈴木總理大臣モ沖縄決戦ノ意向フ軍令部總長ニ強ク披瀬シタ
右ハ積極的反撃フ（沖縄）反撃ト本土ノ防空反撃ヲ含ム一堅忍スル
モノニアツタ

本土決戦ニ於ケル特攻戦果算討ノ基礎ニ用ヒラレナ居ル「統計」命
中率ヨ一〇ノ數字ハ如何ナル基礎ニ依ルヤ 又自備ノ在ル數字カ
從來ノ命中率。本土ノ特性。ソノ他所要ノ要素フ檢討シタ上ヨ一〇ノ

正ノキヘシト、而リヤクノ事ニテ、多難來る事
無事御免、定説ト「△」曰ニ此、一也。又、一也。
ハ、後宮ナリ、既バタ一也。ヒ
國フヤ西モード南也、由是ハ、國也。小倉也。而クモヘ國也。
國也。リハ、十ノ國ナリ。イハ、小倉也。國也。而クモヘ國也。
國也。又、武氏也。而ハ、日シ端シケル也。之也。而ノ一也。

數字ヲ得タ 撃墜特ニ航空機司令部ハ一ノ説迄主張シタ
右ハ比島方面。沖縄作戦ノ戰果報告ヲ取程度割引シナソレフ從來ノ
命中率ト見テ居タノデアル 従ナ戰後ノ調査ニ依ツチ承知シ得タ戰
果カラ見ルト架空ノ數字トナツタ

米上陸軍ガ敵方同ニ分散シ能モ數次ノ機関ニ分レテ時間間隔ヲ離イ
ナ來攻スル場合識期シタ様ナ命中率ガ得ラレルデアロウカ
航空特攻ハ先ツ九州・四國方面ニ展開シテ唐ル部隊ガ攻撃シ遂天側
方面ノ戰力ヲ推進シテ攻撃サセル其ノ結果攻撃ハ十一〇日間ニ亘
ル又攻撃目標ハ夫々當該正面ノ攻撃容易ナル目標ヲ選バサセル
從テ當初一週間位ノ時間内ニ上陸ク企圖スル敵船團所謂廣イ意味ノ
第一波ニ對シテハ油煙ヲ與ヘ待ルト考ヘタ

清持齋集卷之二

當時陸軍側ノ情報ヤ検討フ利用シ陸海共同シテ詳細ニ検討シタ
六月八日前ノ研究ヲハ二〇個師團一〇〇〇隻 三〇乃至四〇個師
團一一〇〇〇隻ト見タガソノ後再ニ研究ヲ重ネ又輸送ノ外各種艦船
ガ多數參加スルコトヲ據期シナ一〇個師團一〇〇〇隻ト檢討シタ
九州方面ニ來攻スル場合第一波ハ一〇個師團、第二波ハ五〇一〇個
師團（時間間隔ハ一週間内外）ト見。參數ヲ一〇〇〇隻内外ト概算
シタ 又種々島等ニ基地ヲ達メ沖繩、糧ケ島基地ハ中小船フ用ヒル
場合ヲモ考慮ニ入レタ

從テ六月八日御前會議ニ於クル事令部總長ノ説明資料トシテ研究サ
レタ數字ハソノサノ研究ニ比シ概メ一26イ

テ東洋方面にて敵合編隊シタハ猶太當中華は甚しきトヤハロウタ
米土連軍が邊に回ニ合戦シ田子達木ノ邦國ニハシヤ胡闘闘而過ト

果ヒヤ死タヤ榮空ノ邊半ヤナリモ
命中率ヤ見ヤ居タノアーテル勢ヤ強モノ競争ニ及シヤ本邦シノ勢ヲ過
叶ハ力無ナリ。吾等帝國ノ邊界辺地ハ邊路私道ニシキシノレ故來、
機半を奪フ。敵軍ニハ空空軍合宿ヘ一ノ飛行主張シタ

命中率ヤ見ヤ居タノアーテル勢ヤ強モノ競争ニ及シヤ本邦シノ勢ヲ過
叶ハ力無ナリ。吾等帝國ノ邊界辺地ハ邊路私道ニシキシノレ故來、
機半を奪フ。敵軍ニハ空空軍合宿ヘ一ノ飛行主張シタ

敵期ニ反シ米軍方直路關東ニ來攻シタ場合ハ燃料ハ如何ナル田真子
アツタカ

反輸用ノ燃料ハ九州方面ニ半備シタ攻撃用フ便フコトガ出来タガ關
東ニ攻撃用燃料ノ半備ハ缺乏シナ居タ

GPTシナハ反輸用ハ自ラ指置シ得ル力攻撃用ハ中央ノ警戒ニ一任ス
ルト云フ考ヘテアツタ

陸軍ニハ相當燃料ノ餘裕カアルト見ナ居タ

兩統帥部當局者間デハ決戰ノ場合ハ燃料ノ調達フ（陸軍カラ海軍ヘ）
スル内蔵ガ出來テ居タ

右ノ場合飛行機ノ性能上幾十%ガ駆機ニ投合シタ機動力可能ナリト
判断センヤ

關東ニ來タ場合關東ニ幾置サレテ居タ兵力ガ第一戰ニ參加シ得タニ
過ギヌデアロウ。九州方面ノモノハ逐次練度優秀ナルモノノミガ反
撫ヲ期待シ得タデアロウ。

關東方面ノ顧點ヲ秘匿スルタメ九州ノ方面ハ（利）フ徹底的ニ秘匿シ關
東ノ方面デハ偽飛行機ヲ基地ニ配列シテ機通信ト相俟テ欺騙ニ努メ
ナ居タ

米軍ガ一九四五年秋若ハ冬季ニ本土直接攻撃（上陸）スルコトナク
封鎖撲滅攻撃ヲ執行強化スル戰略ヲ採用スル時本土ニ於ケル海軍ノ
諸作戰準備ハ如何ナル影響ヲ受ケルト判断シタカ

A我ニ有利ナリヤ如何ナル點ガ

米軍ノ本土上陸ガ遲延スレバ和平工作上有利ト考ヘタ

B 我ニ不利ナリヤ如何ナル體ガ

砲爆薬ノ領収ニ依リ魔導狀態ガ悪化シ組織的抗酸力ガ低下スルコ
トヲ憂慮シタ

サレル所ニアツタ

本土決戦ニ先チ敵ガ中文、奄美大島・濟州島ニ進攻シテ來タ場合之ニ對スル航空攻撃ハ本土ノ決戦トノ關係ニ於テ如何ナル配分ニ用意サレテ居タ力

中立ノ場合、特其國兵ヲニ一付シハ君一ナシタ
奄美大島ノ場合ハ精銳ナル一部兵力ヲ以テ短剣ナル攻撃ヲ實施スル
既定ニアツタ

但シ何レノ場合テモ此間之改鑄、好機ガアレバソノ改鑄ヲ實行スル
計盤ハ持ツテ居タ（別紙參照）

南部九州改編ノ場合訛歸ニ先ツ米連ガ足ヲカタルトノ着意ハ強カツ
タ力

一九四五年十月九州テ次號航空作戦スル機種合而ノ開港フ

但シ同島ノ地勢上大ナル價值ナシト謂フ結論ニ達シ海上特攻ノ一部
ヲ配備スル計畫ニ止ツタ

米軍ガ本土上陸前ニ行フベキ砲撃ニ依リ航空駆逐ノ消耗ヲ幾何
ノ程度ニ考ヘテ居タル

細ニ検討シタ結果 60%ト見極ツタ

ヘタノデアル

本土航空作戦ノタメ海軍ノ航空艦載機ハ如何

右ハ機動用並攻撃用
full) 合シテ一擊分ノ一・五倍ニ相當スル

制空機、機械、偵察機ハ一、五倍テハ不十分テハナイカ、機速ノ如
黒ソノ他ノ消耗ノ見積リハ如何

本土ノ防空ニ必製ナ遊撃取締機ノ所要燃料ハ大型機ニ對シ月三回
立々舉シ得レ然斜フ則ニ呆守シテ苦タ

航空特攻ニ當ツテ米船幽泊地上空ノ制空ニ就テ確信ガアツタ力

從ナ攻撃ノ時機ハ薄暮。夜間。黎明ヲ主トシ晝間攻撃ノ必要ナ端
合短時間限定サレタ空城ノ制空ヲ敢行スルコトヲ考ヘテ居タ

本土作戦ニ於クル海上特攻ノ駄果算討ノ基礎ニ就テ

(三)

三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

卷之三

米軍は本土七ヶ所にてヘリコプター空挺による輸送を実施

例掲ハ間違ツテ居ナイガ

主命中華七省地圖輿人見之深有感焉

但シ審査調査團ニ報告サレテ居ル特改舟艇ノ記録ハ七月二十七日

現在ノモノヲ特攻船ノ生産ハソノ火力テ生産力無外シナ前後

B 既往ノ統計ガ妙イノデ目算ニ過ギナイ

海上特攻舟集

決戦航空作戦ニ端スル陸海中大協定ガ七月月中旬ニナツチ出來タノヘ
遷キニ過ギナイカ

國會例ハ五月二十六日開

海軍側ハ六月人事ノ大異動ヲ行ヒ實質的ニハ本土ノ作戰準備ヲ進メ

六居外

チ基地・飛行機ノ整備・人員ノ教育訓練・燃料ノ集積等ハ着手遅れ

シザ居タ

本土決戦ニ備スル邊境首腦部ノ自信、見透シ如何

然的ニ階マネバナラナイ階梯ダト考ヘテ居タト思フ

航母ノキノレ事務事務ノ用事シ、資料引用等が該名ナ西メ
 ハシツ機関室機器ノ實物キツキ而ハ該處等ノ所置ナリト
 ハ該處所蔵ノモノハ其の製造年月等ノ記載、並其、原定機器
 並各導入機器等ノ所可ハノ實物、
 並、運輸シト面ヤムガ

但シガ行是、次第ニ於ナヘ或程度ノ成程ハ必メ有ルカモ最ナハイ
 一處米軍ガ本土、攻撃リ製造ベンベ「ハ」リ業セケンニ機器大ア
 ブルカラ數種、政治手帳、機カルカモ取ナヒイヘ一機、機ヲ
 挑ツナ歟タ

航母司令部作戰部長ハ上司カラ和平取扱事務リ監心ノ者ヤルロヒ
 フ嚴禁シ専ラ作戰、諸ニ禁制ハ勿論禁制ヤント昭ル

本土攻撃、諸各機種、所取採本況久事無事

機関機（艦上・水上・飛行） 駆逐機（艦上・水上・飛行）

2c (96式) 330 (L)		
2c (6式) 570 (330) L	2b (96式)	655 (L)
2c (電電) 330 (L)	2b (96式)	1080 (L)
2c (紫電) 330 (450) L	2b (紫電)	1540 (L)
2c (2式) 850 (L)	2b (紫電)	1200 (L)
2c (H光) 2460 (L)	2b (銀河)	5700 (L)
2c (87式) 1160 (L)	2r (彩電)	1355 (730) L
2c (天山) 1605 (300) L	2r (2式)	1080 (330×2) L
2c (96式) 5390 (L)	2r (96式)	294kg
2c (1式) 6490 (L)		

レ駆逐ノ兵シ合意、拂リ軍事ヒテ軍事カナシル
 機器合全機合登場、アリセバ合日國航運團リヨウジンノ運送、ナリト
 ハシシヤ爾、
 ハセレセシ駆逐ノ役活、ナリ、船ドアヒセキセキノマハ、船ノ駆
 逐米國ヒキナ、没輪ノ國鐵バシシノロ駆カセフ、駆大ト
 合シセキ主在ノ次第、原レ、駆逐兵、田島ヒテ等ノ事外有ラカナ

tar (96式) 1170 (L)

tar (96式) 1165 (L)

tar (0式) 1480 (L)

tar (0式) 630 (L)

飛行艇 練習機 駆逐哨戒機 桜花

td (97式) 13410 (L) tar (90式) 630 (L)

td (2式) 16880 (L) tar (93式) 330 (L)

tar (由利) 480 (L)

2東海 1430 (L)

1 正 700 (L)

1 桜花 1450 (L)

飛行艇 練習機 桜花
大艇